

第130回「村長とのふれあいトーク」当日のやりとりコメント

【1】災害に強く、安心して暮らせるまちづくりについて

教育版マイクラフトを活用し、「災害が起きても安心して暮らせる街」「災害が発生しても再び立ち上がることのできる街」をテーマにした街づくりを行いたいと考えている。東海村での取組みを参考としたいため、話を伺いたい。

⇒【村長コメント】

本村では、自然災害に加え、原子力災害への備えも必要とされている。ハザードマップの配付や災害時を想定した訓練を通じて、有事の際にも落ち着いて避難できる体制づくりに取り組んでいる。また、避難所生活の長期化を防ぐために、インフラの迅速な復旧も欠かせないと考えている。

【2】市民神輿の導入による地域文化への触れ合いの促進について

近隣市町村には、自治体が市民神輿を購入し、活用しているとの話を伺った。これを参考に、70周年記念公募事業の補助金制度を利用し、子どもたちが使用する神輿を購入したいと考えている。少子化が進む中で地域ごとに神輿を整備するのは難しい状況だが、一基購入し、祭りなどの機会に活用することで、子どもたちに地域文化に触れるきっかけをつくりたい。

⇒【村長コメント】

事例について調査し、その結果をもとに担当課から連絡させる。

⇒【担当課コメント】

市民神輿に関する自治体の事例を調査したところ、市町村や自治会等のコミュニティ主催の祭りに市民神輿を貸し出していました。コロナ禍以降は貸出件数が著しく減少傾向にあるようです。

70周年記念公募事業の補助金制度の対象となるかについては、詳細をお伺いしながら確認させていただきます。

【3】-1 自治会活動支援に関する交付金制度の見直しについて

所属する自治会では、地域のつながりを維持するため、積極的に自治会活動に取り組んでいる。しかしながら、昨今の物価高騰の影響を受け、活動を行えば行うほど運営が厳しくなるという状況が生じている。このため、本年度は一部の活動をやむなく自粛せざるを得なかった。こうした社会情勢の変化や自治会ごとの活動実績を考慮し、それに応じた交付金の支給要件にすることや、上乘せで支給することについて検討いただきたい。

⇒【村長コメント】

特徴的な活動を行った自治会への経費補助については、自治会が作成したカレンダーの配付など、物的成果に評価を行い、補助金を交付した事例がある。一方で、イベント等の活動については、審査基準の明確化が難しく、判断が難しい側面があるのかもしれない。担当課へ伝える。

⇒【担当課コメント】

社会情勢の変化や自治会の活動実績などを考慮し、自治会への財政的支援の見直しを検討します。

【3】－2 自治会における除草作業について

自治会において、地域環境の維持・美化を目的に、定期的な除草作業を行っている。こうした活動に対して、何らかの形で評価がいただければ、携わる者の励みになる。検討いただきたい。

⇒【村長コメント】

地域のために行われた作業に対して、感謝や労いに加え、何らかの形で評価を求める気持ちについては、理解できるところがある。御意見として受け止めたい。

【3】－3 中学校における部活動活動方針の見直しについて

中学校の部活動において、活動時間の縮小により、活動を希望している子どもたちが十分に取組めない状況にある。近隣の市町村では、休日のうち1日は部活動を実施することが認められている自治体がある一方で、本村では活動が制限されており、子どもたちの学びや成長の機会が失われつつあるのではないかと懸念している。

⇒【村長コメント】

部活動の活動時間が減少することにより、子どもたちの居場所が失われる可能性についての懸念はある。しかしながら、国の方針に基づき、部活動の地域移行が推し進められており、その担い手を教師が引き続き務めることは難しい。こうした中で、子どもたちの「やりたいこと」を支援する施策として、「こども・わかもの応援給付金」を創設した。また、子どもたちの生の声を聞き取りながら、必要な環境整備に向けて取り組んでいる。